

オリエンテーリング

2024. 2. 26

人生は旅である。あるいは、人生は旅のようなものである。よく聞くフレーズである。なるほどそうであるとは、まだ思えないでいる。

旅をすることがある。いわゆる旅行である。どうもせわしい。オリエンテーリング的なのである。次の目的地に遅れないようにと行動している。そのため、じっくり味わうということがない。まさか、教員だからと言って、修学旅行や部活動の遠征や大会のスケジュールが染みついているというわけではないだろう。きっと、そういう性分なのである。何かを見て味わうというよりも、そこに行ったという事実が、自分の中で重要視されているように思う。

あるとき、気づいた。自分の人生もオリエンテーリングだなと。自分では意識してこなかったが、結果的にそうなった。狭い教育界という範囲の中で、右往左往している。小学校の先生になったかと思ったら、中学校の先生になった。試しに受けてみたら、イタリアのローマに行ってしまった。教頭になった。学校以外の場所で働いた。校長になった。高校に行った。中学校に戻った。

役職もそうである。1年から2年で終わるポジションが多い。長く務めているものが少ない。もともと、一つのところに何年もとどまるのが苦手である。自分の中では2年でいいと思っている。だからといって、いくつものことを経験したからいいとは思ってはいない。どうも、こうなってしまう。

このオリエンテーリング的な人生を変えたい。旅行中に、何かに心打たれたということが少ない。だから、せっかくの旅行がまるで修学旅行のようになってしまう。それでも、伊勢神宮と出雲大社の空気は違った。京都で見た仏像には心を奪われた。ルーヴル美術館のモナリザには吸い込まれた。ミケランジェロの彫刻は、本当に人がつくったものなのかと思った。挙げれば、いくつかはある。

これからは、ゆっくりじっくり味わう旅をしたい。何時間もミケランジェロと対峙したい。そのうち、ミケランジェロと会話ができるかもしれない。仏像も、じっと見つめていたい。何か語りかけてもらえそうである。旅というものは、特別なものでなくてもよい。海に行く。砂浜に座り、ずっと海を眺めている。これでもよい。

これからは、ちょっと立ち止まって、ペースを変えたい。オリエンテーリングをやめたい。旅も人生でもある。先のことを心配しない、ゴールを設定しない旅である。いろいろと行ってみたい所、見てみたいものは山ほどある。どれだけ行ったかという数の勝負ではなく、質の勝負にしたい。どれだけ自分が変わるのか楽しみである。まずは、近場で練習を積んでみようと思う。